

三四会支部だより

三四会横浜支部

平成27年度三四会横浜支部(産婦37回)が就任し「新支部(横浜三四会)総会が、11月18日(水)横浜駅西口ベイシェatonホテル&タワーズで開催された。当日は武田純三三代会長、安井正人医学部長補佐(61回)、藤本英一鎌倉三四会会長(40回)、数野隆人藤沢三四会会長(43回)、松村日出志東北三四会会長代理(58回)に加え、三田会・三四会の交流を目的として横浜三田会の鈴木邦之会長(昭和31年経済学部卒)を、主賓としてお招きした。会員総数771名中140名(開業および他地区勤務医44名、勤務医96名)の会員が集い、来賓や応援指導部までを含めると153人が参加し、八十島唯一会長

会長から新病院棟建築状況と募金への参加要望のお話があり、支部活動の活性化と地区三田会との連携を勧められた。更に三四会員の医師会活動について言及があり、最近の三四会活動について述べられた。安井医学部長補佐は、大学は学問をする場であり学問を通じて若い人材を育てる。またその器である新病院の開設をしっかり行う所存であるという、岡野新医学部長から託されたお話しを頂いた。また初めてお招きした横浜三田会の鈴木会長から、全三田会中最も歴史ある創設13年の横浜三田会のあらましを紹介いただき、今後の両会の交流を約束された。

漢方、そしてイグノーベル賞から学んだことについてのご講演を拝聴した。なお座長は、新見先生の外科学教室の先輩にあたる、現馬車道慶友クリニック院長で三四会副会長・本会役員の古堀清和(外63回)が務めた。イグノーベル賞とは、サイエンス・ユーモア紙『風変わりな研究の年報』とその編集者マーク・エイブラハムス氏により1991年に創設された賞で、人々を笑わせ、そして考えさせてくれる。ノーベル賞をパロディ化したものではあるが、風刺や皮肉で与えられることも有るものの、根本的には真面目な化学研究であることが多い。

新見先生は、このイグノーベル賞医学賞を2013年に受賞している。イグノーベル賞受賞は日本人では7年連続だそうだが、慶應義塾では本物のノーベル賞はもうらんおらず、イグノーベル賞も新見先生が初受賞である。受賞の対象になったのは、心移植後のマウスにオペラを聴かせると拒絶反応を抑制して延命効果があった」というもので、通常心移植後8日後にマウスは自己の免疫拒絶反応で死亡するが、オペラの「椿姫」を聴かせると最長90日・平均40日生存した。曲をモーツァルトにすると平均20日、アイルランド歌手エンヤの歌では平均10日だった。津軽海峡冬景色・地下鉄工事の音等では何もしないのと同じ8日で死亡したことが、研究の骨子である。ネズミを走らせると免疫が上昇し、ある種の漢方薬も免疫力を増加させる等、付随した細かな研究が付け加わり、大変膨大な研究であることが披露された。

先生は慶大医学部を卒業後、心臓血管外科の今村先生に啓蒙を受けて外科の道を目指されたが、必ずしも希望に合った研究班に配属されなかったが、血管外科医として修練されて留学、そして慶大外科から関連の帝京大学に赴任しておられる。先生の医師としての人生は決して順風満帆なものではなかったそう。そこでは本職の血管外科医として手術できる環境が失われてしまう。その時手にとられたのが、留学時代にリサーチで扱われたマウスの心移植であり、臨床は漢方に手を染められ、余暇にトリアスロンを手掛けられて、肥満で走れず全くカナヅチだったのが、頑張りつてフルトリアスロン完走された。上記研究に厚みをもたらしただけで、こいつはたまたま本人の言葉を借りると「些細な

こと」の積み重ねが、一見有り得ないことが起こったのだと言えよう。「大脳皮質が免疫に影響を及ぼすことを示唆する」と述べられ、この研究の延長上に本場のノーベル賞受賞が有るかもしれないと述べられている。45分と限られた講演時間であったが、1分とたがわずピッタリの時間でお話になり、イグノーベル賞授賞式の模様などユーモアを交え、かつ熱く語られる先生のご講演に、参加者一同深い感銘を覚えた。この業績を継承する若手の研究者が続き、本場に「大脳と免疫」でノーベル賞を取ってもらいたいものだと考える次第である。

講演後、三田塾監局より拝借した大旗を仰いで、塾応援指導部員の下で、塾歌斉唱を行い、本会会員で当日参加者の最年長で、横浜三田会副会長で

勢亨(34)安田三弥(34)川口龍文(35)竹内宏(36)鈴木理文(38)野崎正之(39)横井正博(39)香川順(40)岩田清二(41)佐藤善之(41)八木福昭(41)朝倉均(42)市川敏明(42)西川武二(43)山前邦臣(44)秋月正史(45)杉浦芳章(46)石井忠信(47)木内準之助(48)宮地清光(48)郡建男(49)吉田博之(49)吉田民子(49)安藤暢敏(50)秋山武仁(50)菅原信(50)内藤政人(50)馬場志郎(50)明石敏男(51)中村修三(53)吉井宏(53)中村恒夫(54)鈴木隆(54)久保内光一(55)永田博司(56)前澤眞理子(56)内田伸弘(57)吉村慎一(57)城裕日出志(58)鈴木邦之、能

もいらっしやる能勢亨先生(内34回)による乾杯のご発声で、開宴した。34回生の大先輩から94回生の新卒者までが集う会であったが、研修医に対しての会費の割引効果からか、初期9名・後期12名の研修医が参加し、会場には若い層の出席者が多く、華やかな雰囲気の家であった。

締めとして、4名のチアリーダーをバックに2名の応援指導部の指揮による、応援歌「若き血」「三色旗の下に」「丘の上」のメドレーを拍手を交えながら歌い、最後に「慶應讃歌」を全員で肩を組みながら歌って一同大いに盛り上がり、興奮冷めやらぬうちの散会となった。



之58山下真紀(58)相三郎(58)中島史雄(59)三角隆彦(60)宮田博(60)藤井芳明(60)小松弘一(61)中島洋介(61)野本聡(61)鎌田修博(61)川浦光弘(61)吉田宏(62)田口暢彦(62)掛札敏裕(62)山下行雄(62)永見圭一(63)古堀清和(63)江端広樹(64)藤田浩文(64)千葉和宏(64)三谷和彦(64)長島敦(64)相三郎(65)鈴木孝司(66)佐藤道

夫(66)藤井博史(66)後藤淳(67)畑康樹(67)上田誠司(67)増山宏明(67)河原由恵(68)山下裕(68)原田竜彦(68)荒井宏(69)稲葉真(69)秋葉靖雄(69)小山田和弘(69)安井信隆(69)松田洋人(69)相三郎(70)倉田忠宣(70)吉津晃(71)相三郎(71)研(71)相三郎(72)林念(72)四家達彦(72)相三郎(73)藤田有里子(73)佐藤浩三(73)塩見哲也(73)仲里朝周(74)関博章(74)富田真人(74)相三郎(74)正春(74)相三郎(74)江川智久(74)相三郎(75)峯裕(75)井上芳正(75)高江雄二(75)吉

井毅(75)小池祐司(75)相三郎(76)船曳知弘(76)渋谷慎太郎(76)相三郎(76)中下学(76)相三郎(77)山根隆(78)相三郎(79)川崎俊樹(80)半田寛(80)長田麻衣子(80)相三郎(81)石田勝(81)小野滋司(81)原義和(81)大平正典(81)相三郎(82)高野盛登(84)西村空也(84)笠井弘子(85)石井賢二(85)本郷周(88)飯ヶ谷のり子(89)相三郎(90)小堀香織(90)眞寿田彰彦(90)平出貴裕(91)眞鍋維志(91)竹内優志(91)長谷部夏希(91)八代聖(91)相三郎(92)田啓佑(92)松永崇宏

(92)菅野雄紀(92)吉本憲史(92)稲毛純(93)田中美波(93)市川将隆(93)小島英哲(94)嶋根学(94)今井亮太郎(94)小西啓之(94)田中拓(94)新屋貴章(94)小野瀬輝(94)計147名心臓指導部6名、計153名